

歴史文化館ニュース 第14号

2015.12.2

『「栢山グッズ展」ーグッズを通して振り返る栢山の歴史ー』

栢山歴史文化館館長 栢山 美恵子



今回、栢山の創設期から現在に至るまでの「栢山グッズ」を一堂に集めてみました。グッズの中心は、もちろん学園章（校章）を記したモノになります。学園章は大正10年に制定され、以後そのデザインは、周年記念品や行事などの公式な記念品だけでなく、生徒会・学生会・大学ゼミ・同窓会等で独自に制作されたモノにも使われ、愛されてきました。

学園章以外にも、栢山を表すデザインとして公式に決められたものがあります。2007年にコミュニケーションマークや校名ロゴタイプ、基本カラー・スクールカラーなどが制定されました。そのカラーは緑系統が中心ですが、歴史的にはえんじ色も重視されてきました。学園章・校章の色、そして栢山中学校の制服のネクタイの色などがそれです。かつては中学の制帽（ベレー帽）にも使われました。（旧家政学部棟（現在の教育学部棟）の壁面タイルの一部にも使われ、現在も遺されています。）

また、昭和41年から栢山中学校・高等学校の生徒が愛用している補助バッグのチェック柄があります。当初バッグは3種類ありましたが、生徒の自由選択の中でチェック柄だけが選ばれるようになりました。このチェック柄は2012年に改めて学園の手提げ袋にも登場しました。また同年、タータンチェックの発祥地であるスコットランドの行政機関「スコットランド・タータン登記所」に、“SUGIYAMA Tartans”として国際登録されています。

学園創設以来今日までの110年間に作られてきたグッズの種類は、周年記念品から文房具まで多種多様で、バラエティーに富んでいます。約400点ある展示品一つひとつから、制作者の思いや、それぞれの時代の人々のニーズや好み、また時代背景を垣間見ることが出来ます。グッズを通して栢山の歴史を振り返って見ていただきたいと思います。

なお今回の展示は、栢山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科、阿部研究室（3年生）の学生さんの全面協力により一味違った魅力ある展示になりました。是非ご来館ください。

（展示にあたって多くの皆様から大事にされていたグッズを提供していただき、ありがとうございました。しかし、まだ集め切れていないグッズも少なからずあります。この機会に展示品にはないグッズをお持ちの方がいましたら、ご一報いただければ幸いです。）

【栢山グッズ展】 開催期間：平成27年11月11日～平成28年6月15日

【栢山グッズ展会場を学生がデザインしました！】

今回の栢山グッズ展では、生活科学部・阿部研究室の学生の皆さんが展示会場を設計し、制作を行いました。学生の豊かな発想から生まれた展示会場は、今までの企画展にはない洗練された空間になっています。

栢山グッズ展を見に来られた際は、展示室のデザインの方も是非ご覧ください。

生活科学部准教授 阿部順子



館長から最初に「企画展の展示方法の検討への学生参加の可能性」について打診があったのは6月、私が栢山歴史文化館専門委員で、生活環境デザイン学科教員ということでお声がけ頂いた。館長は当初、学生とディスカッションする位のイメージだったかもしれない。しかし、当方はものづくり、デザインの学科なので、言葉で表現するという頭はほとんどない。サイズ、色、形状が一様でない400もの展示物をクセの強い会場にどうやって小綺麗に配置するか、という展示会場の設計に自動的に進んでしまうのであった。

時間的にも予算的にもかなりタイトなこのプロジェクト、4年生は忙しいので、3年生13名と後期開始から取り組むことにした。しかし、社会に出ればそういう状況はよくあること。今回は、私が社長、学生が所員というリアル設計事務所ごっこで、クライアント(館長)のいる、実際の空間を手掛けられ、設計、プレゼン、コミュニケーションの能力の向上が期待できることから、ゼミ配属のキックオフとしては悪くないと見込んだ。幸い、今年は設計や制作に優れた学生、持ち味をうまく協働の中に活かしてくれる学生に恵まれ、全てが厳しい中で皆よく健闘してくれたと思っている。



学生達は「母校の歴史に関する場に、学んだことを活かして関わって、生活環境デザイン学科の学生として嬉しかった」「実物を設計する難しさと楽しさがわかった」など、今回の経験を喜んでいる。大変ではあったが収穫の大きいプロジェクトであった。

【栢大祭で「歴史研究会」が歴史文化館とコラボ】

10月17(土)の栢大祭初日に、大学の同好会である歴史研究会が歴史文化館とコラボして、クイズラリー・スタンプラリーを開催しました。



「歴史研究会」代表・文化情報学部 西原真美

私たち歴史研究会は、今年の文化祭も、栢山歴史文化館とコラボしました。コラボした内容は、クイズラリーとスタンプラリー、「糸菊」のしおりの配付です。

教室にて自分たちの出展も実施しましたが、教室と歴史文化館の両方でクイズラリーの問題をお客様に配付することで、どちらでも問題が解けるような形にしました。

答えは歴史文化館に行くことによって、分かるようにしました。当日、懸命に問題を解いてくださる方が多く見られ、とても嬉しく思いました。



また、双方の場所に来られた方にはスタンプを押し(クイズラリーの裏面にスタンプ欄を記載)、集まった方には「糸菊」の表紙を印刷したしおりを配付させていただきました。今回、問題の小冊子は120枚ほど刷ったので、それだけのお客様が来られたと思います。たくさんのお客様に喜びの声をいただき、とても達成感のある文化祭でした。

【もう一人の学園創設者・相山今子先生 没後50年にあたって】



平成27年は、相山正式先生と共に学園を創設し、教員としてまた寄宿舎の舎監として永年務められた今子先生の、没後50年目にあたります。以下に、今子先生の略歴と、今子先生関連の常設展示品を紹介します。この機会に改めて、学園の創設期に多大な功績を残された今子先生を偲んでいただければと思います。

今子先生略歴

学園創立10周年頃の今子先生



今子先生（左）と

花嫁姿の前畑秀子（中央）

明治8年岐阜県加茂郡生まれ。旧姓中村今子。師範学校を修了後、明治34年に「東京裁縫女学校」（現東京家政大学）に入学し、36年に卒業。自身も女学校を設立したいという志を抱いていたなかで、同校で校長の門下生として学んでいた相山正式と出会った。「志が同じ者同士で一緒にやっていくことになった」という二人は東京で結婚して中京の地に戻り、明治38年武家屋敷を借りて「名古屋裁縫女学校」を開校。夫妻は共同で教科書を作り、教壇に立った。

寄宿舎の舎監も務め、生徒と寝食を共にした。生徒の増加に伴って寄宿生は後に100名を超える時期もあったが、他校のどの例よりも家庭的な運営がなされていたといわれている（金メダリスト前畑秀子も寄宿生の一人で、両親を亡くしていた秀子の母親代わりになって世話をし、結婚に当たっては花嫁を寄宿舎から送り出した）。

家庭では、3人の息子を育て、3人とも学者・教育者となった。昭和13年には、相山女学園の理事で地理学教授だった長男の正英を亡くし、同年相次いで孫娘も亡くすという不幸があった。

昭和13年まで教壇に立ち、その後もしばらくの間舎監を務め、また法人理事（昭和23年まで）を務めた。正式先生没1年後の昭和40年（1965）、89歳の生涯を終えた。

自作小物入れ（上）と枕（下）→

今子先生関連の展示品

○自作の教材——授業プリント・自作小物入れ（約50点）・足袋・型紙など

○著書——「衣服裁方図解（前編・後編）」（明治39年 相山今子編・相山正式関）

○授業等で使用した教具——裁縫七つ道具・こて・足袋の木型・裁縫チャコ（製図用チョーク）・編み物道具・糸や布など

○生活の遺品——家計簿・料理メモ・献立資料・自作の自宅見取り図・自作の名刺・年賀状葉書・裁縫用具入れ・着用した着物類・櫛・眼鏡・枕など

○趣味の遺品——墨絵・和歌など

○書籍・雑誌——書式、礼法、書道、和歌、洋裁、手芸、織物、家庭療法、心理、衛生、文学などに関するもの



【寄贈品紹介】

○小学校関係資料／同窓会住所録、創立30周年誌、写真等（松下万里子氏寄贈） ○写真／附属高女～専門部、書籍「思い出の引き出しから」（自著）（片山文子氏寄贈） ○相山女学園名簿、高等学校卒業アルバム、ノート（食物／理論）（方野正康氏寄贈） ○マグカップ／教育学部第1回卒業記念品（大森隆子氏寄贈） ○絵はがき／母校運動会記念／昭和2年、潮干狩り／大正15年（大川知子氏寄贈） ○プラスチック製小物入れ／学園創立60周年記念、卒業証書／専門学校／昭和24年（西脇正枝氏寄贈） ○バックル、バッチ／専門学校／昭和19年頃（佐野アイ氏寄贈） ○写真、絵はがき（金森正徳氏寄贈）



【中学校文化祭 「金剛鐘」が最優秀賞】

『I can't forget 金剛鐘～私は金剛鐘を忘れることができない～』

中学校2年2組担任 藤井伸子



今年の中学校文化祭、ビッグアートのテーマは「つなぐ」になりました。そこで2年2組は、栢山の100年を超える歴史を学び、伝統を受け継いで次の100年につなげていきたいと考えました。伝統といえば毎朝聞く金剛鐘ではないかということになり、そこから構想を膨らませていきました。

生徒たちは特別に間近で金剛鐘を見せて頂いたり、夏休みには歴史文化館を訪れ、勉強してきました。正式先生の子教育に対する熱い思いに触れ、あれもこれも取り入れたいと考えて

しまいなかなか作品としてまとまりませんでした。最終的に土台は100年の歴史本。飛び出す絵本のようにかつての制服などが飛び出す。中央に杉の木。杉の木の上には金剛鐘が私たちを見守るという形に決まりました。

伝えたいことを形にするのは難しく、思いの半分も表現できないビッグアートになりましたが、大きな課題に取り組み、なんとか発表することができました。これからもこのような経験を積み重ねて、立派に栢山の伝統を「つなぐ」人間になってくれることを願っています。

中学校2年2組クラス委員 石川佳瑛、永井未夢

最初、ビッグアートが文化祭までに完成するのだろうかとても不安でした。しかし、文化祭の1週間ぐらい前にメインの金剛鐘の形が決まってから、みんなの集中力が上がって見事完成することができました。また、最優秀賞をとることができて本当にうれしかったです。今年の文化祭は一生心に残る大切な思い出となりました。

【名古屋ボストン美術館の記事に「金剛石」の紹介】

7月18日（土）の名古屋ボストン美術館 Facebook で、本学園中学校・高等学校に設置されている金剛鐘と、金剛鐘が毎朝演奏している唱歌「金剛石」に関する記事が掲載されました。また、栢山の中・高の生徒が美術館に来館したことも合わせて紹介されました。（名古屋ボストン美術館転載許可済）



【編集後記】

今回の「栢山グッズ展」では、学生の皆さんを始め、多くの方にご協力いただき開催する運びとなり、大変感謝しております。歴史のあるモノから新しいモノまで、個性の光るグッズがそろっておりますので、来館者の皆様には楽しんでご覧いただければと思います。

歴史文化館ニュース 第14号

発行日 2015年（平成27年）12月2日

編集・発行 栢山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 栢山美恵子 村瀬輝基 大喜多優香